

2013.10.19 現地説明会資料

## 三山木遺跡第6次発掘調査

京田辺市教育委員会

調査地	京田辺市三山木柳ヶ町43他 (三山木地区特定土地地区画整理事業地内28街区7画地)
調査期間	平成25年8月22日～平成25年10月31日（予定）
調査面積	約440 m <sup>2</sup>
調査原因	集合住宅新築
調査作業	株式会社イビソク

### 1.はじめに

三山木遺跡は三山木地区の区画整理事業に伴う調査で新たに確認された遺跡で、これまでに5回の調査が行われ、南山城地域で最も成立が古い可能性がある弥生時代の遺跡であることがわかっています。また、古墳時代の溝や奈良・平安時代の掘立柱建物跡、近世の用水池跡などが、多くの遺物とともに見つかっています。

今回は集合住宅新築に伴い、建設予定範囲を対象に発掘調査を実施しました。なお、排水場の関係から調査区を東西にわけ、西区（約220 m<sup>2</sup>）から調査を行い、現在は東区（約220 m<sup>2</sup>）を調査しています。

### 2.発掘調査内容

#### ○西区で確認された遺構

第1面：〔中世耕作溝群〕→耕作に伴う溝

第2面：北西部のみ確認

平安時代（10世紀）

〔掘立柱建物跡4棟以上 溝跡〕→ほぼ正方位

第3面：奈良～平安時代（8～9世紀）

〔掘立柱建物跡8棟（内4棟は同じ場所での建替え）以上 塙跡〕→大きく西に振れた方向

第4面：弥生時代 弥生前期を中心とした遺物包含層 遺構は無い

#### ○東区で確認された遺構

第1面：〔中世耕作溝群〕→耕作に伴う溝

第2面：西側第2・3面に対応

奈良～平安時代（8～10世紀か）

〔掘立柱建物跡 井戸跡 祭祀遺構〕

平安以降（10世紀以降）

〔溝跡〕→耕作に伴う溝

### 3.成果

調査区から奈良～平安時代の集落跡、下層に弥生土器を多数含む包含層を確認しました。西区：奈良～平安時代の建物跡と平安時代（10世紀）の建物跡とは大きく方向が異なり、大きな土地改変が認められます。3回の建替えは、よほど規制があったことが想像できます。

東区：東区で確認された建物跡は、正方位で南面に庇をもつ[SB709]2間×3間（4m×5.5m）、大きく西に振れる[SB710]2間×3間（3.3m×5.2m）があり、西区同様8世紀～10世紀にかけて2時期確認することができます。また、柵列[SA715]は4間以上（6.2m以上）を測ります。井戸跡[SE196]は1.5m×1.5m×0.7mを測り、飛鳥～奈良にかけての遺物を確認したことから、建物群よりさらに古い時代の遺構と考えられます。また、[SX164]からは須恵器（鉢）の上に黒色土器（椀）が重なり須恵器甕体部で蓋をされた状態で出土しました。地鎮祭に関連する遺構とも考えられます。



第1図 調査区位置図



三山木遺跡（みやまぎいせき）とは・・・山崎から北東にかけての微高地に広がる遺跡です。

主に弥生時代から中世の集落跡や墓などが見つかっています。

第2図 周辺の遺跡

## 三山木遺跡 調査区平面図 (1:100) 及び参考写真

